

鹿追へ移住して二年目の春がやってきた。庭の植木や花も増え、それぞれ植えた時に比べ各段に大きく成長した。特にダケカンバの成長は目を見張るものがある。二年前、三米ほどだったものが今年には優に五米を超えている。

引越した当初、知り合いの造園屋さんをお願いして、ヒバ(グリーンコーン・黄金ヒバ)、赤エゾ松、エゾ山桜、夏椿(シヤラ・ヒメシヤラ)ダケカンバ(白樺)と思っていた木は実はダケカンバだった、山紅葉、ノムラ紅葉、北ごぶし、ナナカマド、つつじ(ミヤマ霧島・エゾムラサキつつじ・蓮華つつじ)等々本当に計画もなく、その時の感性で適当に場所を決めて植えてきた。

これらの木や花のほかにも、プルーンやすもも、ブルーベリー、杏、サジーなどの果樹ももらったり、買ったりして増えてきた。丸二年が経過して、我が家の庭も少しは格好ができてきた状況である。これは我が

家のガーデニングにまつわる顛末を記録したものである。

・赤エゾ松とヒバ(グリーンコーン)

赤エゾ松は西よりの季節風の強い我が家のため、少しでも風よけになればと思い、入居三か月後に三米位の赤エゾ松の若木を三十本と北側にはヒバ(グリーンコーン)二十本を植えた。しかし、その年のきびしい寒気と季節風で、赤エゾ松五本が枯死した。翌年新芽が出るかと待っていたが、ついに回復せず見た目も悪いので切ってしまった。

気がつけば周辺の家はみな西側を風防の塀で囲っている。我が家も塀で囲う必要があるのかなと、しばらく悩んだ末、折角の植栽を囲ってしまうのも・・・と考え、風防ネットを設置することにした。高さ三米、長さ三十米の風防ネットとなれば、結構な費用となる。暇にまかせて自力での設置を試みる。

まずは図面を作成し必要資材の寸法・数量を見積もる。大切なのは凍上防止の基礎である。鹿追は凍結深度八十センチと言われ、基礎東

石を埋設するにしても結構な重量となるし、水準を出すことも難しい。そこで近くの工事屋さんに相談し基礎だけを請け負ってもらった。

やはり重機の威力は抜群で、測量から束石の埋設まで二日で終了した。この間に、必要資材を注文し配達してもらおう。単管パイプ六米から一米までとクランプ類がどつさり運ばれてきた。資材費約一万三千円。

パイプをクランプで組み立てていくだけだからと甘く見ていたら、これが結構大変。まず四米のパイプを束石の穴に垂直に立て、これに三本の六米パイプを一米ごとに三米の高さまでクランプで固定するのだが、垂直と水平を水準器で確認しながら三米の高所での作業は、冷や汗ものだった。

暑い夏のほぼ一週間毎日この作業を繰り返し、ネットを張って完成した。そのせいか二年目の冬は、植木はすべて無事であった。

北側のグリーンコーンは、一年目の秋に茶色に変色し、これも枯死か？と心配したが、インターネットで調べると、冬季は若干変色するの

だそうだ。実際春には緑が濃くなってきたと安心。

西側・北側を囲うように植えた赤エゾ松とヒバの他に、高さ一米半ほどの黄金ヒバも五本植えたが、やはり一年目の冬に上から半分ほど枝が枯れ常緑の黄金ヒバが二色になってしまった。

これも一年ほど回復を待ったが、遂に回復せず、やむ負えず枝が枯れたところまで幹を切った。すると今年は、枯れていなかった枝がきれいな黄緑色の葉を茂らせ、庭でもひととき目立つ存在となっている。

そして、切り取られた幹を補完するように周囲の枝が上向きに伸びてきて、幹を切ったヒバとは思えない樹形となってきた。樹木は一部が枯死しても、部分的に生きていけば、枯死部分を補って成長するもののようなのだ。

同じことは、樹木の適切な剪定で、樹勢が回復し花や実をより多くつけることにも言えるようである。花や木の観察と適切な措置が大切なんだと思う。こんなささやかな発見もガーデナー初心者にとっては、興味深い経験となる。

・木工工場の建設

引っ越しの前から新居へ移ったら以前より興味のあった木工をやってみようと考えていた。ガーデニングにも木工細工やガーデンテーブル、バーゴラなど必要なものは、自作したかった。

工房といっても電動工具や資材置き場、作業台など三坪はほしい。これもインターネットで調べていくと、プレカット(必要材料をすべてカットしてあり、これらをビスや釘で組み立てていくだけ)の輸入物置があり、これが結構安いことがわかった。しかし、本州の輸入代理店から購入すると配送費用は別途だという。

半分あきらめている時、当時住んでいた釧路に、この輸入物置を扱う方がいることを知った。しかも道東なら配送料も一万円でOKとのこと、早速引っ越し前に購入の手配をした。引っ越して三か月が経ったころ、物置建設資材が配送されてきた。建設まで雨にあててはいけなないので、すでに建ててあった車庫に一旦保管することにした。

それから約一か月。雨の日を除いて、組立説明書を片手に工房を組

み立てていったが、さすがに側面パネルや屋根の組み立ては一人では無理。義兄に手伝ってもらってようやく完成した。以来木工用電動工具も徐々に整い、まず手始めに、書斎の机を制作した。自分で使うものだからその出来栄えに文句は来ないと考えたのである。

これに自信をつけたので、次は丁度成長してきた藤の木のためにバーゴラを作ることにした。高さ二・三米、幅一・八米、奥行き二・六米のバーゴラ(藤棚)である。植えてから二年目になる藤の木は、今年この藤棚の上まで成長して来た。同時に植えたコクワの木も藤の木と競うようにつるを伸ばし、棚の上でツルを絡めている。来年は藤のきれいな花とコクワの実がなるかも・今から楽しみである。

次に制作したのは、ウッドデッキ上のガーデンテーブルとベンチである。家庭菜園やガーデニング中の昼食はほとんど外でとるので、その時のためにテーブルとベンチを作るのである。そして直射日光を避けるためにガーデンパラソルもセットできるテーブルがほしい。これもいろいろなDIYの雑誌など参考に、大きさや構造を決め、木工用設計ソフトで図

面を作成し、板取りや寸法を決て行く。この過程が楽しい。パラソルはホームセンターで購入しこれがセットできるようにテーブルの中央に穴をあけてある。今年はずいぶんこのテーブルで昼食をとった。

・バラ、グラジオラス、ダリヤの栽培

バラの木は以前から持っていたものや鹿追に来てから購入したもので十二株ほど植えてあるがが昨年までは、そんなに多くの花はつけなかったように思う。バラは手入れをして多くの花を咲かせるなどとは考えてもいなかった。植えっぱなしで、剪定も肥料も満足に与えていなかった。その程度の認識しかなかったのである。

今年の春に伸び放題で二米ほどにも延びてしまったバラを適当に剪定してみた。ついでに肥料食いだという認識はあったので、バークたい肥を株の根元にバケツ一杯程もやってみたところ、今年の六月の高温も幸いし、成長が著しく花芽も次から次とつけバラの花を堪能させてくれた。しかし、八月の低温では、一転アブラムシが花芽について、花が変

色・変形し葉にも黒斑が出始めた。急ぎよ病害虫駆除剤を散布。植物活性剤を与えるなど手をかけると、その効果は目覚ましく、アブラムシは退散し葉もつやつやとしてきた。花の栽培は、観察と適切な措置が大切なことを痛感した。

同じことは、グラジオラスやダリヤにも言える。花についての栽培知識に無知であることは、ときに植物に残酷な仕打ちとなることを体験した。

グラジオラスもダリヤも球根であるから、花が終わってもそのまま来年の発芽を待てば良いと思っていた。しかし、今年はいつまで待ってもグラジオラスもダリヤも芽吹かないのである。

こんな時頼りになるのはインターネットである。検索でグラジオラスの栽培、ダリヤの栽培を調べると、寒冷に弱いとある。必ず秋に掘り返し球根を五〇以上で乾燥保管と書いてある。昨年植えた場所を掘返してみると、ダリヤはすっかり球根が腐ってボロボロになっていた。グラジオラスは痕跡すら見つからない。ガーデニングはこんな知識の引き出

しを沢山持っていることが大切なことだと気づかされる。

・花壇ブロックと草むしり

過去二年間、適当に庭木や花を植えてきたが、どうも雑然としていて。思い立って通路と花壇をブロックで分けてやることにした。ホームセンターで適当なブロックを選定し配達してもらおう。すでに植えてある木や花をひとくくりにブロックで囲っていくのだが、庭を絵のキャンパスに見立て、エイヤと曲線を引いて、しばし完成状態を想像する。描いては消しを繰り返して、自分の感性とフィットする線を探し出す。直線では飽きが来るので、できるだけ曲線で結ぶ。

その後、ブロックを埋めるために深さ十五センチ位地面を掘り下げ、ブロックを一個つつ隣のブロックとの高さを合わせ、水準器で水平をとりながら並べていく。全部で百五十個位になろうか。DIYとしては、腰が痛むこと以外は結構楽しい時間であった。

昨年このボーダーブロックを設置したが、今年はこのブロックの花壇側

も通路側にもこぼれ種でビオラが繁殖し、一見、花一杯に見え、それはそれできれいなのだが、何とも雑然として見える。やはり花は花壇の中で、同じ花だけがその存在を主張できるようにしてやりたい。ごちゃまぜの花壇は、単に手抜きなのでは・などと考えていたが、妻はせっかく咲いてくれたビオラだから咲かせておいてなどという。

妻は、花壇のあちこちに知らぬ間に見知らぬ花を植えている。知らずに雑草だと思つてむしつてしまうと、ひどく怒られてしまう。ビオラは家の軒下の犬走りの砂利の上にも繁殖して来た。この砂利の上には、今年スギナが目立つようになり、一時は芝生でも張ったかと思われるほどになってしまった。さすがに妻はスギナははびこると困る、と言いつつ出した。

そこで草むしりである。砂利の上なのでスギナの根を見つけるまで砂利をのぞいていくと一緒に繁茂しているビオラの根も掘り返してしまう。それを言い訳にきれいさっぱりとビオラも雑草も抜いてやった。妻曰く、「きれいになったわね。」

これ幸いと花壇ボーダーからはみ出た花(主にビオラ)もみんな取り除いてやった。そして、花壇の中も小さなビオラの芽は無視して、雑草として除去することにした。そうして雑草がきれいに除かれ本来の土の色で花々の株が区画された花壇は、それぞれの花が気持ちよく咲いてくれているように見える。

かわいいビオラといえどもあたりかまわず侵入して花を咲かせることは、雑草と同じだと私は思う。一度花壇の中をきれいに草むしりをすると、以後雑草が目立つと気になる。それで夏の暑い日が続き一雨来ると雑草取りに追われることになる。さすがに花壇の中は除草剤を使うわけにはいかないが、家の周辺の道路脇の雑草は、一度土を掘り返して雑草の根を徹底して除去し、その後除草剤(カソロン粒剤)を散布したら、ほとんど雑草が生えなくなった。

花壇の中の雑草も、少し表土を掘返し根でつながっているスギナやイネ科雑草や牧草は丹念に根を引き抜いてやると効果的である。長い連なつた根を引き抜いた時は快感で「ヤッター」という気持ちになる。

我が家のガーデニングはまだ3年目に入ったばかりである。植木や果樹も五年、十年といった時間で考えていかなければならないのだと気が始めた。こうやって一年毎に木や花の栽培についての知識を増やしてDIYとガーデニングを楽しんでいきたいと思う。

了